

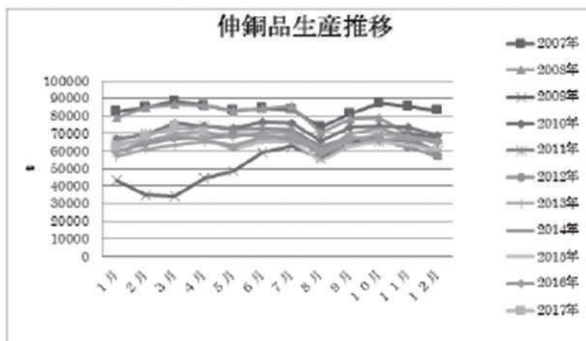
6月の銅マーケットレポート及び5月の見通し (3)

橋本アルミ(株) 橋本健一郎

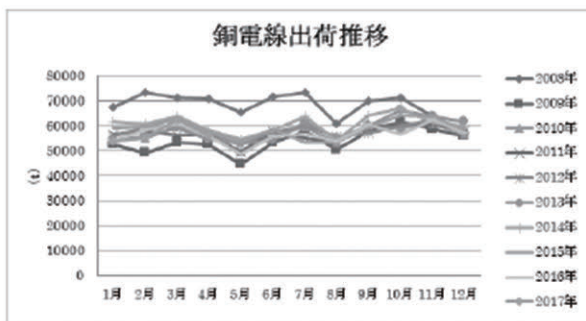


■前月の国内指標

日本伸銅協会発表の伸銅品生産推移(速報)によれば前年比+6.9%の7万761t。



日本電線工業会発表の出荷速報(推定)では、銅電線出荷量は、前年比+0.3%の5万6200tであった。



■概況

【自動車】4月の四輪車生産台数は74万9087台で、前年同月比+16.3%となり7カ月連続。前年同月を上回った。輸出は37万1827台で前年同月比0.7%の増加。

【販売】5月の国内自動車販売台数(軽は除く)は、23万7512台で前年比+6.1%。8カ月連続プラス。内訳は次の通り。

| | | | |
|-----|-------|----|-------|
| 乗用車 | +6.7% | 貨物 | +2.2% |
| バス | +9.5% | | |

【住宅】平成29年4月の住宅着工戸数は83,979戸で、前年同月比で1.9%増となった。また、季節調整済年率換算値では100,4万戸(前月比2.0%増)となった。

住宅着工の動向については、前年同月比で2か月連続の増加となっており、利用関係別にみると、前年同月比で持家、貸家、分譲住宅は増となった。

引き続き、今後の動向をしっかりと注視していく必要がある。

(持家)前年同月比では先月の減少から再びの増加。前年同月比0.8%増、季節調整値の前月比では1.6%増。

(貸家)前年同月比では18か月連続の増加。前年同月比1.9%増、季節調整値の前月比では2.4%。

(分譲住宅)前年同月比では3か月ぶりの増加。前年同月比2.9%増、季節調整値の前月比では9.9%増。

〈分譲マンション〉前年同月比では3か月ぶりの増加。前年同月比1.3%増。

〈分譲一戸建住宅〉前年同月比では18か月連続の増加。前年同月比5.2%増。

【伸銅品生産】伸銅品生産は、前年比+6.9%の7万761t。9カ月連続増加。内訳は次の通り。

| | | |
|-----|------------------|-----------|
| 内需 | 5万7818t (+4.3%) | 9カ月連続プラス |
| 輸出 | 1万2943t (+19.0%) | 6カ月連続プラス |
| 銅条 | 2万2513t (+10%) | 12カ月連続プラス |
| 黄銅棒 | 1万6905t (+9.2%) | 12カ月連続プラス |

【電線】前年比+0.3%の5万6200t。内訳は次の通り。

| | | | |
|------|--------|-------|--------|
| 国内 | -0.2% | 輸出 | +18.8% |
| 通信 | -11.1% | 電力 | -6.3% |
| 電気機械 | +0.8% | 自動車 | +13.8% |
| 建設電販 | -3.3% | その他内需 | +7.2% |

【輸出】電気銅輸出が+0.6%の3万7795t。銅スクラップは-5.9%の2万4517t。

【輸入】電気銅が-44.9%の2951t。スクラップは-8.1%の9602t。

【見通し】自動車は生産が+16.3%。国内販売台数が前年比+6.1%。生産が7カ月連続プラス、販売も8カ月連続プラス。生産、販売共に増加しており今後も期待。

住宅着工の動向については、前年同月比で+1.9%と前月の微増から小幅改善されており、下げ止まり傾向かどうか今後の動向に注目。

伸銅品は、9カ月連続プラスの前年比+6.9%。需要の多い銅条が、12カ月連続プラス。黄銅棒も、12カ月連続プラス、輸出6カ月連続プラス。今後も、期待。

電線は、前年比+0.3%の5万6200t。輸出が+18.8%と大幅回復。需要の多い自動車、建設電販がそれぞれ+13.8%、-3.3%。全体として回復傾向。

銅輸出は、前半の円安傾向から地金は増加。スクラップはメーカーの買い控え傾向から増加。

銅輸入は円安傾向から減少

【スクラップ需給予想】流通在庫は、生産は好調であるがLME価格の下落傾向を受けて断続的に売られており市中玉は少ないのではないかと？

需要面に関しては、住宅で底入れ、自動車の生産販売は好調であるが、上海在庫の急増や地政学リスクの先行き不透明感から需給は緩むのではないかと？

【価格・為替予想】今月は米国のパリ協定離脱、ロシアゲート疑惑と中国経済、環境問題の動向に左右される。

パリ協定離脱に関しては、正式決定が決まれば石油、シェールガス増産からの原油などの下落などを受けて商品全体が下落する可能性あり。

ロシアゲート疑惑に関しては、即解決とはならないにしても議会で採めるようであれば、好調なNY株にも悪影響が懸念される。

前月に続き、中国経済、環境問題に関しては、鉄、銅

アルミなのでこれまででない環境規制が敷かれ生産活動に弊害がでている。この厳しい取り締まりが今後も続くのかどうか注目。

それらを踏まえた6月の銅価格は、パリ協定離脱が撤回、ロシアゲート疑惑が冤罪の可能性で、中国の環境規制が多少緩み、企業活動がこれまでとはいかないまでも動き出した場合、5月高値の5800ドルを予測。いずれかの場合は5750ドル。下値はいずれの条件も達成できなかった場合5月一段安値の5500ドル。

為替は、ここ最近のISによる国際テロ、及びロシアゲート疑惑の動向次第。

それらを踏まえ予測は、ISによる国際テロが治まらず、ロシアゲート疑惑で米議会が混乱した場合、高値は5月後半高値一段高の109円台(TTM)を予測。いずれも行われなかった場合、安値の114円台を予測。銅建値に関しては640-700円程度と予測している。